

訓練の様子と各工法の説明

都市型簡易工法

住宅や地下などの建物内に水が入らないようにするもので、土の入ったプランターをレジャーシートなどで覆う方法、ゴミ袋に水を入れ、ダンボール箱に入れた後にレジャーシートで覆う方法、ポリタンクに水を入れた後にレジャーシートで覆う方法などがあり、身近なものを利用して実施する工法です。



作業中の様子



作業後の様子

積み土のう工法

河川からの越水を防ぐもので、土のうを下流から順に並べて行き、増水の高さによって積みあげる高さを替えていきます。構造が簡単で、汎用材料で製作でき、作業が容易で広く一般に用いられています。



作業中の様子



作業後の様子

鋼板防護（こうはんぼうご）工法

河川の増水により堤防から溢れる水を止めるため、鋼板の板を連結し、河川に対して2枚平行に並べ、鉄製の単管パイプを地面に打ち込み、水を止める工法です。



作業中の様子



作業後の様子

改良積み土のう工法

土のうを積み上げて越水を防ぐもので、全体をブルーシート等で覆うことで止水の役割を受け持たせる工法です。中詰め材を省略した分、施工性が向上し、舗装された堤防上面など、杭が打ち込めない場所でも設定が可能です。



作業中の様子



作業後の様子

連結水のう工法

チューブ状の水のうの中に水を入れ、重ねて使用することにより、越水を防ぐものです。水のう一つの長さは15 mですが、増水箇所の長さに応じて繋いでいくことができます。



作業中の様子



作業後の様子

大型土のう工法

大型ブロック工法とも呼ばれ、土木工事などで使用されるフレコンバッグを崩落箇所に投入し、川側斜面を直接保護する工法です。流速が速い河川にも適用でき、深掘れ防止効果が高い工法です。



作業中の様子



作業後の様子